

0216

交換時間

36

軍令部

0217

大臣官房

軍務局長

第二課長

司員

副司員

陸

昭和二年四月二十六日

省副官

三井物産株式会社

船舶部東京出張員宛

昭和貳年四月貳拾六日發布

四月廿二日起案  
四月廿六日發付済

軍艦商船間無線電信交換

時向設考一請願ノ件

海軍出ノ軍艦商船間無線電信ニ海軍無線電報  
取扱規約(大正十三年通信省告示第七七八號)ニ依リ  
通信ノ得ル次第ニ有ラザル候ハ其向爲念ハ貴部當省者  
ノ電報ノ海軍無線電報ノ取次司員ノ都通信ニ務者ト面接ノ  
上其所酌前法ヲ協定セラルル時ニ當リ海軍無線電報  
ノ得ルモト認メラレ候

海軍省  
三井物産株式会社

海

三井物産株式会社

軍令部  
三四、廿七

陸海軍省  
陸海軍省  
陸海軍省

0218

右回答ス

(通牒先 其ノ送付能隊ヲ豫備)

(結)

昭和貳年四月貳拾六日發布濟

横造中葉十三行郵紙

海軍

軍本部

軍務局

0219

副官

昭和二年四月十八日

海軍省

御中

拜啓

### 第二課

軍艦商船間ニ無線電信交換時間設定請願ノ件

現時支那時局混沌タル際危険ナル揚子江流域航海ノ商船ト軍艦トノ間ニ無線電信ヲ利用シテ相互ニ通信連絡ヲ保ツ事ハ頗ル時宜ニ適シタル事ト存候ニ就而ハ軍事上御差支モ無之候ハ、御考慮ノ上適當ノ方法採用方御取計被成下度御願申上候尙弊社船春日山丸船長ヨリモ茲許同封別紙寫ノ通り當局ニ請願方申越候間御高覽被下至急何トカ安ンジテ航行出來得ル様御配慮相煩度候

先ハ右御願迄申上度

勿々

東京市日本橋區本町三丁目一番地  
三井物産株式會社

船舶部東京出張員

三井物産株式會社



12/2





0220

昭和二年四月十日

社 船 掛 御 中

於 若 松

春 日 山 丸 船 長

拜 啓

軍艦商船間ニ無線電信交換時間設定請願ノ件  
御願致シ度キ事

近來支那ノ動亂ハ益々擴大シ南軍ノ勢力加ハルト共ニ共產主義的並ニ排外的色彩濃厚ト相成リ其ノ結果無智ニシテ何等自覺ナキ彼等下階級民ハ宣傳ニ乗ゼラレ附和雷同シ暴行掠奪慘殺等ヲ恣ニ致シ居リ候爲メ揚子江就航船ハ何時彼等ノ襲撃ヲ受クルヤモ計リ難ク危險此ノ上モ無キ状態ニ御座候

斯ノ如キ時局ニ際シ無線電信ハ樞要ナル機關ニシテ之ニ依リ各地ニ介在スル本社支店、出張所並ニ軍艦ト完全ナル通信ノ連絡ヲ取り危險ニ際シ適宜ノ處置ヲ取ル事ハ肝要ノ事ト存候、然ルニ揚子江河中ニ在リテハ地

勢ノ關係上無線電信ノ通信範圍ハ非常ニ短ク其ノ上海岸局武昌ハ軍事通  
 信ニ専用サレ上海 Zikawei 吳淞ノ貳局ハ其附近碇泊支那軍艦ノ（強勢ナ  
 ル六百米突SP式電波）間斷オキ交信ノ爲通信阻害サレ鎮江邊迄ヲ最大  
 限度トスル状態ニ御座候一方陸上電信ハ事變突發ノ際ハ危險ノ爲メ使用  
 困難ノ事ト存ゼラレ候唯一ノ頼ミトスル帝國軍艦トノ交信モ亦波長未知  
 ノ爲メ不可能ニ御座候依ツテ鎮江ヨリ上流特ニ荻港碇泊中等事件突發致  
 ス様ノ事在リテモ無線電信設置居ルニモ拘ラズ通信不可能ニテ甚ダ心細  
 キ事ニ御座候先般本船護送方依頼ノ爲メ蕪湖碇泊中ノ驅逐艦樞艦長ヲ訪  
 レ申候際支那時局切迫致シ危險ナル揚子江流域ノ航海ニ就航致シ居ル我  
 ヲ商船ハ軍艦トノ直接通信ヲ非常ニ熱望致シ居候ガ何ントカ其ノ方法無  
 キモノヤト問合セ申候處艦長モ其事ハ誠ニ必要ナル事ニシテ考慮ノ價値  
 充分ナレ共今ノ處直接通信致ス方法無之且又昨今ノ如キ時局多端ナル際  
 ハ本艦ノ如キ三人ノ無線通信員デハ軍事上ノ通信丈デモ殆ンド不眠不休  
 ノ状態ニ付キ時間ヲ割キテ商船ト通信致スコトハ殆ンド不可能ノ事ナラ

ントノ事ニテ御座候且又現在使用波長モ小職ノ間ニ對シ明確ナル答ヲ避  
ケラレ候之レ軍事上ノ秘密ナラント愚考仕リ候ヒシ故余リ深ク立入り質  
問ヲ避ケ申候

然ルニ珠江方面ハ邦船保護計畫方法トシテ軍艦トノ直接通信方法ヲ特定  
サレ既ニ實施致サレ居ル事ニ候故揚子江ニ於テモ珠江方面同様軍艦ト直  
接通信法特定實施被成下候ハ、萬一ノ場合危険ヲ未然ニ防ギ得ルカトモ  
存ゼラレ候故何卒此ノ件御考究ノ上海軍省ノ方ニ御交渉被成下候ハ、幸  
甚ノ至リニ候

右御報告旁々御願申上候

勿々

軍務部 (0223)

東京

通信

東京通信

昭和二年四月二十

三井物産株式會社

海軍省副官

船舶部東洋出張員

小楨和輔殿

三井物産株式會社

拝啓 貴社向在東京信交樓時向設定請願件

相承件ハ早速申上ル下取斗

可申上ル申上ル系移年下取後ハ申上ル

初上ル申上ル申上ル

三井物産株式會社

切是

三井物産株式會社

三井物産株式會社

2.4.26 受接



0224

無線時報

東京海軍無線電信所

軍務局

5220

文 部 省

第二課

過般本會ニ於テ經度測量施行ノ際ハ測量用無線時報發信ニ關シ便宜  
ヲ與ヘラレ候段探謝ノ至リニ存候  
右不取敢及御挨拶候也

昭和二年十月十日

文部省測地學委員會委員長 平山 信

妹尾



海軍次官 大角 岑 生 殿

十月十日  
官房  
結

軍務局  
第二課  
2 10.11  
受接